数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度
リテラシーレベル【MDASH-Literacy】申請要領

※MDASH…Approved Program for Mathematics, Data science, and AI Smart Higher Education

（令和９年度再認定用）

目　次

１．はじめに（リテラシーレベル再認定について）.....2
（１）申請主体について 2
（２）申請する教育プログラムについて 2
（３）申請手続 3
（４）再認定における確認の観点について 5
２．再認定の各提出書類等について.....5
（１）申請書（表紙＋様式１～３） 5
（２）プログラム構成科目の最新のシラバス 8
（３）取組・成果概要 8
（４）その他補足資料 9
（５）申請書類一式 9
３．申請様式の記載例について（再認定） ……10

１．はじめに（リテラシーレベル再認定について）

再認定とは、一度認定を受けた教育プログラムが認定期間の満了に伴い、これまでのプログラムの実績等に基づき、認定期間の更新を行うための認定手続です（**今回は令和４年度に新規認定した教育プログラムのみ対象**）。なお、**再認定の場合、認定期間は認定を受けた年度の初日から３年間**となります。

また、リテラシーレベルプラスの選定については、認定校の拡大により、選定の目的であった全国の大学等への普及・展開に一定の成果が出てきたことを踏まえ、**令和８年度以降の選定は行いません**。

※本要領において「学部・学科」は「大学の場合は学部、短期大学や高等専門学校の場合は学科」と読み替えてご覧ください。

（１）申請主体について

- 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に規定される大学、短期大学、高等専門学校が申請主体
- 学校ごとに原則１プログラムの申請のみ可

【留意点】

・ １法人で複数の学校を設置している場合でも、学校ごとに申請してください。

・ 通信教育課程（部）を別に申請する必要はありませんが、認定を受けようとする通信教育課程（部）の教育プログラムが異なる場合は、別に申請してください。

（２）申請する教育プログラムについて

- 「数理・データサイエンス・ＡＩ（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」（2024 年２月　数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム）（以下「モデルカリキュラム（リテラシーレベル）」という。）に準拠した教育プログラムであること
- 教育プログラムを構成する授業科目は、正規の教育課程に位置付けられている卒業単位として認められる授業科目であること
- 構成する授業科目については、以下の５つの審査項目を満たしていること

項目	５つの審査項目	モデルカリキュラム対応箇所
項目①	● 数理・データサイエンス・ＡＩは、現在進行中の社会変化（第4 次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。	導入 1-1. 社会で起きている変化 1-6. データ・AI利活用の最新動向
項目②	● 数理・データサイエンス・ＡＩが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。	導入 1-2. 社会で活用されているデータ 1-3. データ・AIの活用領域
項目③	● 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・ＡＩは様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。	導入 1-4. データ・AI利活用のための技術 1-5. データ・AI利活用の現場
項目④	● ただし数理・データサイエンス・ＡＩは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、ＡＩ社会原則等）を考慮することが重要であること。	心得 3-1. データ・AI利活用における留意事項 3-2. データを守る上での留意事項
項目⑤	● 実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・ＡＩの基本的な活用法に関すること。	基礎 2-1. データを読む 2-2. データを説明する 2-3. データを扱う

（出典）「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の創設について」
（2020 年３月 数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム 認定制度検討会議）

【留意点】

- 大学院や別科、専攻科の授業科目や、入学時のガイダンス、公開講座、寄付講座は対象外です。
- 卒業単位として認められない授業科目を教育プログラムに含めることは可能ですが、認定要件を満たすための授業科目は、卒業単位として認められる科目で構成されている必要があります。
- 教育プログラムを構成する授業科目について、科目数や単位数、教養科目・専門科目への位置付けに関する要件はありません。
- 教育プログラムを構成する授業科目に、応用基礎レベルの認定（を受けようとする）教育プログラムの授業科目が含まれていても差し支えありません。

（３）申請手続

① 申請受付期間

令和８年 11 月９日（月）～令和８年 12 月７日（月） 17:00 締切

② 申請方法

「③提出書類」に記載の書類を準備のうえ、申請受付期間内に次の２点を対応してください

□ 提出書類を Box 上にアップロードする

【アップロード先 URL】

https://mext.ent.box.com/f/342374f933eb431f8ef48d7772ce9c06

□ 申請フォーム（Microsoft Forms）に必要情報を入力し、送信する

【申請フォーム URL】

https://forms.cloud.microsoft/r/5fRc1RBHgF

【留意点】

- 提出書類について、提出するファイルを１つの zip ファイルにまとめ、ファイル名を「**【リテラシー再認定】〇〇大学**」としたうえで、アップロードしてください。
- 提出書類のアップロードと申請フォーム上での送信を完了後、文部科学省又は文部科学省より業務委託を受けた者より、申請者（申請フォームに記載のメールアドレス）に対して、受領確認メールを送信します。

※受領確認メールを受信した旨の連絡は不要です

※申請後２週間を経過しても受領確認メールが届かない場合は、文部科学省まで連絡してください。

【連絡先】

高等教育局 専門教育課 情報教育推進第一係（03-6734-4750）

③ 提出書類

紙媒体の提出・郵送は必要ありません。また、申請書の提出にあたり、押印は不要です。

＜提出書類一覧＞

提出書類の種類 **（太字はファイル名）**	提出様式
（１）申請書（表紙＋様式１～３） **01【リテラシー再認定】〇〇大学（申請書）**	**Excel**

（２）プログラム構成科目の最新のシラバス （令和９年度以降新規開講科目については授業内容が分かる同等なもの） **02【リテラシー再認定】〇〇大学（シラバス）**	**PDF**
（３）取組・成果概要（1 ページ　ひな形様式） **03【リテラシー再認定】〇〇大学（取組・成果概要）**	**PowerPoint**
（４）その他補足資料（2 ページ以内　提出任意） **04【リテラシー再認定】〇〇大学（補足資料）**	**PDF**
（５）申請書類一式 **【リテラシー再認定】〇〇大学（書類一式）**	**PDF**

④　申請フォームについて

以下の事項について、申請フォーム（Microsoft Forms）より必ず入力してください。

【申請機関の情報】

- 学校名
  申請時点の学則に記載されている名称を記載してください。
  例：〇〇大学、◆◆高等専門学校　等

【リテラシーレベルについて】

- 申請区分【リテラシーレベル】
  リテラシーレベルの申請区分を選択してください。
- 初回認定時のプログラム名【リテラシーレベル】
  令和４年度に認定を受けた際の教育プログラムの名称を記載してください。
- 再認定後のプログラム名【リテラシーレベル】
  再認定後の教育プログラムの名称を記載してください。

【応用基礎レベル（大学等単位）について】＊質問項目は省略

※申請がない場合は「申請なし」を選択または空欄にしてください

【応用基礎プログラム（学部・学科単位）について】＊質問項目は省略

※申請がない場合は「申請なし」を選択または空欄にしてください。

【プログラムの公表について】

- プログラムの公表情報
  申請する教育プログラムについて、ＨＰ等での掲載状況を確認するため（PDF ファイルの URL ではなく）該当情報が掲載されているウェブページ（HTML ページ）の URL を記載してください。
- 公表情報の確認
  プログラムを公表しているウェブページにおいて網羅すべき事項について、掲載されていることを確認し、チェックを入れてください。
  【公表に必要な事項】
  - □　**プログラム名称**
  - □　**身に付けることができる能力**
  - □　**修了要件**
  - □　**科目の構成**
  - □　**授業の方法および内容**

□　**プログラムの実施体制**
□　**自己点検・評価の結果（毎年度実施）**
□　**申請書類一式（認定後）**

（４）再認定における確認の観点について

- 認定を受けた教育プログラムの詳細(「プログラム名称」「身に付けることのできる能力」「修了要件」「科目の構成」「授業の方法および内容」「プログラムの実施体制」「自己点検・評価の結果」）がＨＰで掲載されていること
- 初回認定期間におけるプログラムの実績や成果【様式２関係】【様式３関係】
- 更新後の認定期間におけるプログラムの構成【様式１関係】

【留意点】

・　ＨＰでの掲載内容は提出書類等と一致するようにしてください
・　「授業の方法・内容」については、当該教育プログラムのＨＰ内に対象科目のシラバスを掲載いただくか、シラバス検索ページへの遷移するリンクを掲載してください。ウェブページ内に直接記載いただいても差し支えありません
・　「自己点検・評価」の結果について、教育プログラムの開設年度から令和７年度までの各年度の自己点検・評価を公表してください。

２．再認定の各提出書類等について

（１）申請書（表紙＋様式１～３）

認定期間の更新を希望する教育プログラムについて、これまでの実績や成果、令和９年度以降の計画について、指定の表紙及び様式１～３に記載してください。

令和９年度以降の計画として、教育プログラム名や修了要件、構成科目を変更したもので申請する場合、再認定後にＨＰの記載を申請書にあわせて修正してください。

記載にあたっては、本ページ以降の各様式の留意点や記載例をご確認ください。

表紙　「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル)」の申請について

背景色が黄色のセルに必要事項を記載してください。(一部プルダウン方式です)

本シートの内容が、認定結果通知書や認定時における公示の内容に反映されますので、他の書類やＨＰにおける記載も含めて、誤りのないように留意してください。

なお、「申請担当連絡先（E-mail)」は、認定を受けた場合には、履修状況調査等で連絡することがありますので、複数人が確認できるメールアドレスを推奨いたします。

様式１　プログラムを構成する授業科目について

①申請単位

「大学等全体のプログラム」をプルダウンで選択してください。

複数の学部・学科を設置する場合、２ページの「（１）申請主体」のとおり、リテラシーレベルでは特定の学部・学科のみのプログラムは認定できません。なお、通学教育課程と通信教育課程、異なる教育プログラムを実施する場合、それぞれの教育プログラムで認定を受けることが可能です。

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件が相違する場合は「学部・学科によって、修了要件は相違する」を選択してください。学部・学科によって修了要件の相違はなく、全学部・学科に同一の修了要件を設定している場合は、「学部・学科によって、修了要件は相違しない」を選択してください。

③対象となる学部・学科等名称

＜②において、「学部・学科によって、修了要件は相違する」を選択している場合＞

様式１のシートを複製し、④に記載する修了要件の対象となる学部・学科の名称を記載して、修了要件ごとに様式１を作成してください。複数の学部・学科で同じ修了要件の場合は、同じシートに記載してください。

＜②において、「学部・学科によって、修了要件は相違しない」を選択している場合＞

この項目は記載不要です。

④プログラム履修必須の有無

全学部・学科等、あるいは③で記入した学部・学科等において、教育プログラムを卒業までに必ず履修するものとして実施している、又は、今後履修必須とする計画があるかどうかについて、プルダウンの中から選択して回答してください。

【例１】令和８年度以降の入学生全員に履修を課している認定教育プログラム

→「既に履修することが必須のプログラムとして実施」を選択

【例２】令和８年度までは希望者のみが履修していたプログラムについて、令和９年度以降の入学生全員に履修させることに変更した

→「令和９年度以降の入学者より履修必須とする予定」を選択

【例３】履修必須となる時期が未定あるいは、必須にするかどうかも含めて未定の場合

→ 「時期含め未定」を選択

【留意点】

・大学における学部内の一部の学科が履修必須の状況（例　Ａ学部 a 学科は履修必須だが、Ａ学部 b 学科においては履修任意）の場合は、当該学部は履修必須ではないという整理で、選択してください。

⑤修了要件

申請する教育プログラムの修了要件を具体的に記載し、５つの審査項目の内容を含む授業科目を必ず履修する修了要件となっていることを確認してください。

その際、「⑥プログラム構成科目」の記載と対応させる（例　必須科目２単位、選択必須科目から２単位の計４単位）等、修了要件を満たすための条件を分かりやすく記載してください。

⑥プログラム構成科目

- 「必要最低科目数・単位数」欄には、プログラムの修了に必要な最低科目数、単位数を記載してください。

  （例　Ａ学部 a 学科は 3 科目 6 単位だが、Ａ学部 b 学科は 2 科目 4 単位の場合）

  →b 学科の「2 科目 4 単位」を記載してください。
- プログラムを構成する授業科目を「必須科目」「選択必須科目」「選択科目」に分類して、科目名、単位数、モデルカリキュラム対応状況欄を記載してください。

- 「モデルカリキュラム対応状況」は、２ページにある、５つの審査項目とモデルカリキュラム（リテラシーレベル）の対応表をもとに、「1-1」～「その他」までで、該当する学習内容を含むものにすべて「〇」を選択してください。

  【留意点】

  ・修了要件を満たすパターンが複数ある場合、どのパターンにおいても「1-1」～「3-2」の項目は網羅していることを確認してください。

  ・「4-1」～「4-9」は、モデルカリキュラム（リテラシーレベル）の「４．オプション」となるため、該当がある場合のみ「〇」を選択してください。

  ・選択項目にない授業科目は「その他」を選択してください。
- 修了要件に含まれない履修推奨のような科目は、「選択科目」欄に記載してください。
- 「必須科目」「選択必須科目」「選択科目」欄が不足する場合は、行を追加してください。
- 「授業科目」「単位数」と他の書類等（シラバスやHP）との一致を確認してください。

⑦プログラムを構成する授業の内容

記載にあたっては、様式に記載されている内容に留意の上、以下リンク先の「リテラシーレベル モデルカリキュラムの構成（リンク先ファイルP.11)」の項目ごとに、学修内容やスキルセット（リンク先ファイルP.13以降）を参照してください。

（参考）モデルカリキュラムについて

https://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/pdf/model_literacy_20240222.pdf

【留意点】

・選択科目については原則記載する必要はありません。例外として、プログラムの修了要件を満たすうえで、履修が必要となるケースがある場合は、記載してください。

（選択科目を記載する例）

次の場合、選択必須科目２単位または選択科目１単位を修得しなければ、修了要件４単位を満たさない。

【修了要件】

必須科目２単位（Ａ）、選択必須科目１単位（ＢまたはＣ）を含む計４単位を修得すること

【構成科目】

必須科目Ａ（２単位）

選択必須科目Ｂ（１単位）

選択必須科目Ｃ（１単位）

選択科目Ｄ（１単位）

選択科目Ｅ（１単位）

・スキルセットのキーワード（知識・スキル）の全てを網羅する必要はありません。

・スキルセットの一字一句を全て満たしていなくても、当該学修項目に対する学修内容を満たすために、当該授業科目で扱っているスキルセットとして当てはまるものが含まれていれば、プルダウンから選択してください。

（例）授業科目「情報Ⅱ」が「2-1. データを読む」の学修項目について、その学修内容「データを適切に読み解く力を養う」を満たすために、「データの外れ値、相関係数」を扱っている。

→分散や標準偏差、偏差値、疑似相関、交絡は扱っていないが、「【B】関連するスキルセットのキーワード」欄に以下を記載

・データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値）、外れ値
・相関と因果（相関係数、擬似相関、交絡）

様式２　プログラムの履修者数等の実績について

①履修者・修了者の実績
様式に記載の内容に留意して、必要事項を記載してください。

②履修者数が減少傾向、修了者を輩出できていない場合の要因分析と対策
直近３か年（令和５～７年度）で履修者数が対前年度比で減少している、または、令和７年度の修了者数が０の場合は、その要因を分析した結果と対策を記載してください。

様式３　認定期間中における成果と課題、今後の計画について

様式に記載の項目ごとに、p.14 に赤字で記載のポイントを参考に、これまでの具体的な取組の成果、課題について、400 字程度を目安に記載してください。なお、取組内容や実績について記載する場合は、具体的な時期（年度）や数値も記載するようにしてください。

（２）プログラム構成科目の最新のシラバス

申請するプログラムを構成する授業科目の最新のシラバスについて、様式１に記載している科目順に並べ、一つの PDF ファイルにしたうえで提出してください。

令和９年度以降新規開講科目については、授業内容が分かる同等なものとして、以下の【シラバスも網羅すべき内容】を記載した授業計画に関する資料を作成のうえ、提出してください。

【シラバスに網羅すべき内容】
「開講年度（欄がない場合には、授業科目名近くの余白に記載）」「学修目標」、「授業の方法」、「授業内容」、「年間の授業計画」、「単位数」、「担当教員」、「成績評価方法等」

【留意点】
・単位互換等を実施している授業科目については、単位互換等に係る協定書等を該当の科目のシラバスの後に添付して提出してください。
・１つの授業科目につき、シラバスを１つ提出で差し支えありません。１つの授業科目で複数回開講する場合に、全てのシラバスを提出する必要はありません。

（３）取組・成果概要

ひな形様式を利用し、現在（直近）の認定期間中における教育プログラムの取組概要・成果を記載した概要資料を作成してください。作成にあたっては、適宜図や写真等も活用し、１ページにまとめたうえで、PowerPoint 形式のまま提出してください。

【留意点】
・１ページを超える場合は、後述の（４）その他補足資料として別途提出してください。
・プログラムの名称や授業科目などが他の提出資料と相違ないようにしてください。
・本資料は文部科学省において公表資料として使用する可能性があります。

（４）その他補足資料

（３）取組・成果概要に記載以外の補足事項（例えば、体制・計画に関する事項や、自己点検・評価に関する事項など。）がある場合のみ提出してください。提出にあたっては、適宜図や写真等も挿入し２ページ以内にまとめてください。ひな形はありません。

（５）申請書類一式

（１）～（４）の必要書類を順番に並べて１つの PDF ファイルにまとめてください。（申請書も表紙から順番になるように並べてください。）

令和9年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の申請について

令和 8 年 11 月 15 日

文部科学大臣 殿

学校種に応じてプルダウンで選択してください。

文科 大学短期大学部 学長
文 科 太 郎

下記の教育プログラムについて、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の認定を申請します。

記

教育プログラム名： 数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム

プログラム掲載URL： https://suuri_datascience_ai/

現在（直近）の認定期間： 令和4年4月1日～令和9年3月31日

申請担当部署： データサイエンス・AIセンター

申請担当責任者氏名： 霞 次郎

申請担当連絡先（TEL）： 03 6734 4750

申請担当連絡先（E-mail）： ml-mdash@mext.go.jp

認定となった場合、認定結果通知書に記載しますので、半角全角やスペース含めてご留意ください。

様式1

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について（令和9年度再認定用）

① 申請単位：大学等全体のプログラム

② 教育プログラムの修了要件：学部・学科によって、修了要件は相違する

③ 対象となる学部名称：経営学部、国際教養学部

④ プログラム履修必須の有無：既に履修することが必須のプログラムとして実施

学部や学科によって、教育プログラムの修了要件やプログラム構成科目が異なる場合は本様式1のシートを複製して、別途作成してください。

例えば、「文学部」「経営学部」「国際教養学部」を設置していて、「文学部」と他2学部で教育プログラムの修了要件やプログラム構成科目が異なる場合、「文学部」については、様式1のシートを複製して別途作成する。

⑤ 修了要件：必須科目2単位、選択必須科目1単位（2科目のうち1科目）の計3単位を修得すること。

⑥ プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数：3 科目、6 単位

	授業科目	単位数	モデルカリキュラム対応状況																					
			1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	その他
(1)必須科目（プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目） ※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない	科目a	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○				
(2)選択必須科目（プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目）	科目b	1								○	○	○	○	○		○	○						
	科目c	1								○	○	○	○							○	○	○	
(3)選択科目（プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目）																							

⑦ プログラムを構成する授業の内容

数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムの学修項目ごとに、プログラムの修了要件を満たすために必要な科目のうち該当する科目を「【A】授業科目名」に記載のうえ、関連性のあるスキルセット(「キーワード(知識・スキル)」「オプション(高度な内容)」を「【B】関連するスキルセットのキーワード」で選択してください。

【C】については、当該学修項目に関して、モデルカリキュラムのスキルセット以外で実施している独自の内容がある場合のみ、記載してください。

【参考】数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム ～ データ思考の涵養 ～ (2024年2月22日改訂)

https://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_literacy.html

基本的要素と学修項目		【A】授業科目名 (⑥のプログラム構成科目からプルダウン方式で選択)	【B】関連するスキルセットのキーワード (プルダウン方式)	【C】スキルセットのキーワード以外で独自に実施している内容(該当あれば記入してください)
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	科目a	ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット	
		科目a	データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化	
	1-6	科目a	AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)	
		科目a	AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)	
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	科目a	調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど	
		科目a	1次データ、2次データ、データのメタ化	
	1-3	科目a	データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)	
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	科目a	データ解析:予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など	
	1-5	科目a	データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)	
(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	科目a	倫理的・法的・社会的課題(ELSI:Ethical, Legal and Social Issues)	
		科目b	倫理的・法的・社会的課題(ELSI:Ethical, Legal and Social Issues)	
		科目c	AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)	
	3-2	科目a	情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)	
		科目b	サイバーセキュリティ	
		科目c	情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介	
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	科目a	データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値	
		科目a	相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)	
	2-2	科目a	データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)	
		科目b	データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)	
		科目c	優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)	
	2-3	科目a	データの集計(和、平均)	
		科目b	データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)	
		科目c	データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)	
その他モデルカリキュラムの学修項目	4-1	科目b	確率、順列、組み合わせ	
		科目b	線形代数(ベクトル、ベクトルの基本的な演算、ノルム、行列とベクトルの積、行列の積、内積)	
	4-2			
	4-3	科目b	数と表現、計算誤差、データ量の単位、文字コード、配列	
		科目b	変数、代入、繰り返し、場合に応じた処理	
	4-4	科目b	時系列データ(トレンド、周期、ノイズ)	
		科目b	季節調整、移動平均	
	4-5	科目a	形態素解析、単語分割、ユーザ定義辞書、n-gram言語モデル、文章間類似度	
	4-6	科目a	画像データの処理	
	4-7	科目c	データベース(リレーショナルデータベース、SQL)	
		科目c	データクレンジング:外れ値、異常値、欠損値の処理	
	4-8	科目c	教師あり学習による予測　例)売上予測、罹患予測、成約予測、離反予測など	
		科目c	データの収集(分析に必要なデータの確認、対象となるデータの収集)	
	4-9	科目c	教師なし学習によるグルーピング　例)顧客セグメンテーション、店舗クラスタリング	
		科目c	データの収集(分析に必要なデータの確認、対象となるデータの収集)	

複数の科目で同じ「キーワード(知識・スキル)」が該当する場合は、科目ごとに一行ずつ記載する。

様式2

プログラムの履修者数等の実績について

①履修者・修了者の実績

○「学部名称」には令和8年度に設置されている全ての学部（短期大学・高等専門学校の場合は令和8年度に設置されている全ての学科）を記載してください。

※設置している学部が1学部のみの場合は、学科ごとに記載してください（短期大学や高等専門学校で1学科のみの場合は、専攻・課程等ごとに記載）。

※学部の中に修業年限が異なる学科がある場合は、当該学部については学科別に記載して差し支えありません。

※設置されている全ての学部には、学生募集停止中の学部も含まれます。

○「学生数」「入学定員」「収容定員」には令和8年5月1日時点で記載してください（学校基本調査と同様で差し支えありません）。

○「履修者数」には、当該年度において教育プログラムの履修を開始した学生の人数を計上してください。

※複数年度にまたがる教育プログラムの場合、履修を開始した初年度に計上してください。

○「修了者数」には、当該年度において教育プログラムを修了した学生の人数を計上してください。

※修了の考え方は、修了要件を満たした段階、修了証の交付、卒業時等が想定されますが、各大学等で判断してください。

学部名称（※）	学生数	うち女性	入学定員	収容定員	令和8年度		令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		履修者数合計	修了者数合計
					履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
文学部	324	123	80	320	65	50	60	50	50	30	25	10	10	0			210	140
経営学部	250	80	60	240	45	35	35	25	27	15	23	11	15	5	10	0	155	91
国際教養学部	236	97	60	240	40	25	33	18	25	12	15	7	10	3	5	0	128	65
																	0	0
＜1学部のみ設置の場合＞																	0	0
政治経済学部																	0	0
政治学科	165	76	40	160	25	20	24	17	20	12	14	8	15	5	7	3	105	65
経済学科	130	45	30	120	31	29	30	30	25	21	20	17	15	12	14	10	135	119
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
合　計	1,105	421	270	1,080	206	159	182	140	147	90	97	53	65	25	36	13	733	480

②履修者数が減少傾向、修了者を輩出できていない場合の要因分析と対策

直近3か年（令和5～7年度）で履修者数が対前年度比で減少している、または、令和7年度の修了者数が0の場合は、その要因を分析した結果と対策を記載してください。

＜令和7年度の修了者数が0の要因＞
〇〇と△△により、××であったため。

＜改善に向けた具体的な対策＞
〇〇により、要因の解消を図るとともに、△△を目指す。

様式3

認定期間中における成果と課題、今後の計画について

教育プログラムの改善、教育の質向上に資する取組・成果という観点から、可能な限り定量的なデータに基づく分析やこれまでの自己点検・評価結果を踏まえて、記載してください。

項目	具体的な取組の成果、課題
①プログラムの学修成果（学生等が身に付けられる能力等）	（プログラムを通じて学生がどのような能力を身に付けることを目標としていたのか、目標とその結果について、学生アンケート等に基づく分析を踏まえて記載）
②履修者数向上に向けた取組	（全学的な履修を促進してきた取組内容と具体的な成果、学生アンケート等に基づく分析と今後の課題について記載）
③修了者数向上に向けた取組	（②を踏まえつつ、修了者を増加させるべく取り組んできた内容とその成果、今後修了者を増やしていく上での課題について記載）
④関連する資格の取得推進に向けた取組	（学修成果の定量的な指標として、ITパスポートや基本情報技術者試験など履修者に対して取得を推奨してきた取組があれば、取組の詳細やその成果、今後の課題について記載）
⑤修了者の進路、企業からの評価	（プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況についての把握状況、採用した企業からの評価等を踏まえて、具体的な成果、今後の課題について記載）
⑥プログラムの改善状況	（履修・修了した学生からの評価、出口としての企業からの評価や要望等の分析内容、それらを踏まえて、プログラムをどのように改善・進化させてきたのかについて、詳細と今後の課題について記載）
⑦再認定後のプログラムの目標・計画	（①～⑥を踏まえて、再認定後の教育プログラムにおいて重点的に取り組む内容、再認定期間内における目標について具体的に記載）

大学等名	○○**大学**／○○**高等専門学校**	レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	○○**大学**／○○**高等専門学校リテラシープログラム**	初回認定年度	令和４年度

取組・成果概要

「**教育プログラム名**」
・申請書（表紙）のプログラム名を記載してください。

現在（直近）の認定期間中における教育プログラムの取組概要・成果について、適宜図や写真、データ等も挿入し、１ページにまとめて記載してください。
※フォントの種類や大きさ、色などは適宜変更願います

【記載する内容例】
・プログラムの構成
（カリキュラムマップ、修了要件、身に付けられる能力）
・履修者、修了者、資格取得等の実績、成果
・地域や産業界と連携した取組事例

本資料は文部科学省において公表資料として
使用する可能性がございます